



肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌は健康な人の鼻や咽頭にいる身近な菌ですが、体力や抵抗力が落ちた時などに症状を引き起こします。肺炎球菌が引き起こす主な病気として肺炎、気管支炎などの呼吸器感染症や、中耳炎、副鼻腔炎、敗血症、髄膜炎などがあります。成人では肺炎に、2歳以下の小児では髄膜炎になることが多いようです。また最近では多数の抗菌薬に耐性を獲得した「多剤耐性肺炎球菌」が問題となり、治療が難しくなるケースも出てきています。

肺炎球菌による感染症の予防にはワクチン接種が有効です。肺炎球菌ワクチン「ニューモバックスNP」は主に成人（高齢者）における肺炎の原因菌の中で最も頻度の高い肺炎球菌を標的にした予防ワクチンです。しかしこのワクチンでは2歳未満の乳幼・小児では免疫系が未成熟であり、期待する予防効果が得られない可能性があり、安全面から十分な検討がされていないことから接種が認められていませんでした。

2010年2月に乳幼・小児用肺炎球菌ワクチン「プレベナー」が発売され生後2ヶ月以上～9歳以下の任意接種が受けられるようになりました。

二つのワクチンは一口に肺炎球菌ワクチンといっても、その成分、接種対象者、接種スケジュールなどが異なります。

| 製品名 | ニューモバックスNP | プレベナー |
|----------|---|--|
| 効能 | 日本に分布する肺炎球菌莢膜型の約80%に対応することが可能 | 肺炎球菌による髄膜炎や菌血症、菌血症を伴う肺炎などを予防 |
| 接種対象者 | 2歳以上で肺炎球菌による重篤疾患に罹患する危険が高い者（高齢者等） | 2カ月齢以上～9歳以下の間にある者 |
| 接種スケジュール | 1回0.5mLを筋肉内又は皮下に注射する。 ・健康な人では、少なくとも5年間は効果が持続するとされており、インフルエンザのように毎年接種する必要はなく、1年中どの時期でも接種可能です。 ・5年以上間隔をあけて、2回目の接種ができます。 | 1回につき0.5mLを皮下に注射する。 －標準スケジュール－ 1回目：2～6カ月齢で開始 2回目：1回目から27日以上の間隔 3回目：2回目から27日以上の間隔(1歳未満) 4回目：3回目から60日以上の間隔(12～15カ月齢の間) －初回7ヶ月齢以降－ 1回目：7～11カ月齢で開始 2回目：1回目から27日以上の間隔 3回目：2回目から60日以上の間隔(12カ月齢後) 1回目：12～23カ月齢で開始 2回目：1回目から60日以上の間隔 1回目：24カ月齢～9歳で開始(1回接種のみ) |
| 副反応 | 接種部分の腫れ、痛み、軽い発熱が見られることがありますが、通常1～2日で消失することが多いです。 | 発熱や接種部分の腫れなどが起こる頻度は他のワクチンと同程度です。 |

元 東海大学医学部付属大磯病院 薬剤科 佐藤 早代子

《編集後記》活躍する薬剤師を紹介しています。今後も様々な事業を企画してまいります。ご要望などございましたら、下記の事務局までご連絡お願いいたします。

《発行》(社)神奈川県病院薬剤師会

〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 神奈川県総合薬事保健センター 4階

TEL：045-761-3345 FAX：045-761-3347

インターネットアドレス：<http://www.kshp.jp/>

